

# 新規上場申請のための有価証券報告書

( I の部) の訂正報告書

gooddaysホールディングス株式会社

**【表紙】**

**【提出書類】** 新規上場申請のための有価証券報告書(Ⅰの部)の訂正報告書

**【提出先】** 株式会社東京証券取引所  
代表取締役社長 宮原 幸一郎 殿

**【提出日】** 平成31年3月6日

**【会社名】** gooddaysホールディングス株式会社

**【英訳名】** gooddays holdings, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 小倉 博

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区六番町7番地4

**【電話番号】** 03-3261-8300(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 財務・経理本部長 高尾 秀四郎

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区六番町7番地4

**【電話番号】** 03-3261-8300(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 財務・経理本部長 高尾 秀四郎

1 【新規上場申請のための有価証券報告書（Ⅰの部）の訂正報告書の提出理由】

平成31年2月21日付をもって提出した新規上場申請のための有価証券報告書（Ⅰの部）の記載事項のうち、「第一部 企業情報 第1 企業の概況 3 事業の内容」の記載内容の一部を訂正するため、新規上場申請のための有価証券報告書（Ⅰの部）の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

3 事業の内容

3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_ 罫で示してあります。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 3 【事業の内容】

(訂正前)

当社グループは、純粋持株会社である当社、連結子会社3社の計4社で構成されております。

当社のビジネスは、「ITセグメント」と「暮らしTech(注)セグメント」の2つのセグメントに分類され、ITセグメントではシステム開発等のITソリューション等の提供、暮らしTechセグメントでは不動産のリノベーション・入居者のための不動産仲介サイトの運営を通じた仲介等に係る事業を営んでおります。

当社グループのミッションは、「暮らし×ITで実現する未来のふつう」です。

不動産とIT、どちらも暮らしの基本をつくる大切な要素です。

当社グループは、オープンリソース株式会社、グッドルーム株式会社、ハプティック株式会社3社の強みを融合し、相乗効果を生み出すことで「どこにもない未来のふつう」を実現しています。

(注) 暮らしTech: Living (暮らし) とTechnology (テクノロジー) の造語。

「暮らしTechセグメント」に関わる市場動向については、少子高齢化、所得の伸び悩み等、社会構造的要因により、不動産リフォーム市場は、平成29年時点で6.3兆円と言われる市場規模です。(出典: (株) 矢野経済研究所「2018年度版 住宅リフォーム市場の展望と戦略」) 「暮らしTechセグメント」は、中古住宅の有効活用が果たす役割が考えられます。

もう1点は、住宅利用のあり方においても、従来の所有から賃貸へとシェアリングの受け入れ、「与えられた物から選ぶ」から「自ら自分の嗜好で選ぶ」顧客層が増えており、今後ますます増えていくことが予想されることです。このことは、シェアリング思考の高まりの中、賃貸の空き室を対象とした「リノベーション」ビジネスの増加が見込めることを示しています。

(以下省略)

(訂正後)

当社グループは、純粋持株会社である当社、連結子会社3社の計4社で構成されております。

当社のビジネスは、「ITセグメント」と「暮らしTech(注)セグメント」の2つのセグメントに分類され、ITセグメントではシステム開発等のITソリューション等の提供、暮らしTechセグメントでは不動産のリノベーション・入居者のための不動産仲介サイトの運営を通じた仲介等に係る事業を営んでおります。

当社グループのミッションは、「暮らし×ITで実現する未来のふつう」です。

不動産とIT、どちらも暮らしの基本をつくる大切な要素です。

当社グループは、オープンリソース株式会社、グッドルーム株式会社、ハプティック株式会社3社の強みを融合し、相乗効果を生み出すことで「どこにもない未来のふつう」を実現しています。

(注) 暮らしTech: Living (暮らし) とTechnology (テクノロジー) の造語。

「暮らしTechセグメント」に関わる市場動向については、少子高齢化、所得の伸び悩み等、社会構造的要因により、不動産リフォーム市場は、平成29年時点で6.3兆円と言われる市場規模です。(出典: (株) 矢野経済研究所「2018年度版 住宅リフォーム市場の展望と戦略」) 「暮らしTechセグメント」は、中古住宅の有効活用が果たす役割が考えられます。

もう1点は、住宅利用のあり方においても、従来の所有から賃貸へとシェアリングの受け入れ、「与えられた物から選ぶ」から「自ら自分の嗜好で選ぶ」顧客層が増えており、今後ますます増えていくことが予想されることです。このことは、シェアリング志向の高まりの中、賃貸の空き室を対象とした「リノベーション」ビジネスの増加が見込めることを示しています。

(以下省略)